

楽浪漆器

東アジアの文化をつなぐ漢の漆工品

樋田豊郎 編

Nangnang Lacquer Arts

Lacquer Arts of Han Dynasty that connect East Asian Cultures

Toyoro HIDA

大正時代のことである。韓国併合下の朝鮮で、日本の考古学者らが約二千年前の漆工品を発掘した。発掘された場所が、漢が朝鮮半島に置いた楽浪郡の遺跡だったことから、それは楽浪漆器と呼ばれた。いまではその名を記憶する人は少ないだろう。

しかし昭和初期には、楽浪遺跡を探访する観光旅行が宣伝されたり、楽浪漆器の文様を引用した同時代の漆芸作品をめぐって裁判騒動が起きるなど、その発掘はあたかも事件のように話題を呼んだのだった。その存在感は戦後になっても消えたわけではなく、いまでは漆芸の人間国宝に認定されている増村紀一郎氏も、二十才代後半には東京大学に保管されていた楽浪漆器に魅せられ、その雰囲気に触発された作品を日本伝統工芸展に出品したほどである。

また近年も韓国の国立中央博物館では、楽浪遺品展示室の存続について議論が沸き上がり、韓国古代史の冒頭に中国製遺物が並ぶことにたいする違和感から、それは2008（平成20）年に閉鎖されるという事態が生じている。楽浪漆器の出土は、考古学や近代美術の分野を超え、地政学的あるいは国際政治学的分野に舞台を換えて、その意味が問われつづけているのだといえよう。（はじめにより）

楽浪漆器—東アジアの文化をつなぐ漢の漆工品—

2012年3月発売

樋田豊郎 編

菊判・上製・函入り・340頁（カラー口絵24頁／図版●●点）

本体 8500円＋税

発行：美学出版 ISBN 978-4-902078-29-9

〔執筆者〕

樋田豊郎（秋田公立美術工芸短期大学学長）

宮本真希子（広島県立美術館主任学芸員）

宣承慧（成均館大学校東アジア学院教授）

前川公秀（佐倉市立美術館長）

李榮勳（国立慶州博物館長）

鄭仁盛（嶺南大学校文化人類学科助教授）

早乙女雅博（東京大学教授）

谷豊信（九州国立博物館学芸部長）

横溝廣子（東京藝術大学大学美術館准教授）

加藤寛（鶴見大学文学部文化財学科教授）

小松大秀（秋田市立千秋美術館館長）

原田一敏（東京藝術大学大学美術館教授）

〔目次〕

はじめに 楽浪漆器をめぐる美術と考古学

I 楽浪漆器を受容した日本近代美術のパラダイム

侵略・考古学・観光・近代美術 —日本の美術家が構想した東亜という理念—

楽浪漆器に触発された六角紫水の漆芸作品

六角紫水のエクレクティシズム —感覚の無法な羽ばたき—

創られた古典 —近代日本美術における復古—

津田信夫の「伝統」への試み

II 東アジアのなかの楽浪文化

楽浪文化研究の現況と課題

韓国考古学者の視点から見た植民地楽浪考古学

植民地期日本人研究者の楽浪認識

III 楽浪漆器の発掘調査

日本に残る楽浪漆器 —楽浪出土品と楽浪研究史の概観—

小場恒吉の楽浪漆器文様調査

忍冬文様の伝播

楽浪漆器の製作技法

あとがき

口絵作品解説

参考文献一覧



注文書

全国の主要書店・美術館にてお求めいただくか、直接小社にメール、FAX等でお申し込みください。

樋田豊郎 編『楽浪漆器—東アジアの文化をつなぐ漢の漆工品—』を

冊申し込みます。 ISBN 978-4-902078-29-9

ご氏名	Eメール
ご住所（〒 - ）	
お電話	FAX

*ご入金を確認後、直送いたします。（送料は当方負担）

*ゆうちょ銀行019店（当座）0418568 美学出版 *銀行振込みをご希望の方はお問い合わせ下さい。

美学出版

〒185-0012 東京都国分寺市本町4-13-12 第5 荒田ビル

Tel.: 042-326-8755

email: info@bigaku-shuppan.jp